

書林

第 87 号

2015 年 4 月 6 日 発行

新入生へのメッセージ	1
新入生に贈るこの 1 冊	2~4
Welcome to SGU Library (先輩紹介)	5~7
図書館ガイダンス紹介	8~9
from Library	10
2014(平成 26)年度「利用統計」	11
編集後記	12

札幌学院大学図書館へようこそ

～ 図書館を利用されている先輩学生さんからの新入生へのメッセージ ～

「空き時間を有意義に使ってください」 経営学部 経営学科3年 山口 敬太



ご入学おめでとうございます。心より歓迎致します。

今、きっと期待と不安が入り混じったドキドキ感をお持ちの新入生が多いことと思います。

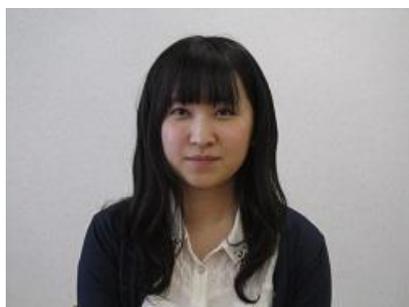
私も入学時は不安でいっぱいでしたが、同級生や先輩、教職員の方々に支えられてなんとか頑張っています(笑)。大学での良さは、何と言っても自分で時間の使い方を調整できることです。時間割上、「空き講」(講義の入っていない講時)が発生する場合がありますが、この空き時間こそが、高校までの学習とは異なる、大学での学びの本質とも言える自発的・能動的学習のために大変貴重な時間なのです。そこで私は、図書館

を利用することが多いです。第3閲覧室の個別キャレルを利用し自分だけの空間を保っての勉強や視聴覚室でのDVD観賞、時には友人との共有空間としてグループ学習室(館内で話し合いが可能)での討議など・・・。

入学時、図書館は「勉強のためだけに利用する」といったイメージが強かったのですが、本学図書館には、最新やこれまで話題の Blu-ray Disc も揃っており、軽雑誌(ファッション雑誌やスポーツ雑誌など)も数多く取り揃えています。

図書館を利用することで、楽しくも忙しい学生生活を乗り越えて行きましょう。

「色々な情報を集めて活用することが大切です！」 人文学部 人間科学科3年 林 眞莉奈



新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。入学して早々、色々とガイダンスを受けながら、自分で講義科目を選択し、自分で時間割を組み立て、履修登録を致しました。どうですか、何となく大学らしさを感じませんでしたか。

もうお気づきかと思いますが、これからは、自分の意思で、事柄の真意を見極めて、自立する力量を身に付けることが求められます。大学では、単位認定の評価方法が、論述試験やレポート提出によるものが多く、また、ゼミ形式の講義では、日頃の発表・報告がその評価のウエイトを占めています。

単位認定の評価につながる説得力のある内容に仕上げるには、その研究テーマ、課題に関する情報を、いかに多く集め、それをいかに論理的に体系的にまとめるかが重要になってきます。そこで、多くの資料が揃っている図書館を利用します。

何も勉強の事ばかりではありません。趣味に、クラブ活動に、学生生活全般をサポートする情報がこの図書館には詰まっています。是非、情報収集ツールとして図書館を利用していただきたいのです。勉強でもプライベートでも、私の場合、図書館の利用は欠かせません。

充実したキャンパスライフを送るにあたって、いろいろな形で、図書館を皆さんの生活の拠点として、大いに活用してください。

● 新入生に贈るこの1冊 ●

『判決はCMのあとで : ストロベリー・マーキュリー殺人事件』 青柳 碧人 (著)

[角川書店 2012年]



佐々木 元 [法学部 法律学科4年]

この本のテーマは「裁判員制度」である。法律関係は難しく思われがちであるが、この本にそれは当てはまらない。

物語が始まってすぐに「いよいよコマーシャルのあとは、判決です！」という台詞が出てくる。この物語では、裁判が生で実況されているのだ。25歳の主人公も裁判員として、このような裁判に参加することになる。最初はやる気が感じられない主人公であるが、ほかの裁判員の「市民感覚」に触れることで、自らの「市民感

覚」について考えるようになる。そして、彼は一つの結論を導き判決を下す。その結論に注目してほしい。また、青柳氏が書(描)く個性豊かな登場人物にも目を向けてもらいたい。どの人物に注目するかによって、見えてくる「市民感覚」も異なってくるだろうし、それが、この本の面白いところといえる。

本は一冊読んで終わりということはない。著者の他の作品に興味を持てばそれを読むべきであるし、また、本の中に気になる内容があれば、それに関わる本を読むべきである。大学生活をより豊かにするものとして、新入生の皆さんには沢山の本を読んでもらいたい。

【 図書館所蔵 1層書架 : 和書 913.6/A0Y 】

『嫌われる勇気 : 自己啓発の源流「アドラー」の教え』 岸見 一郎・古賀 史健 (著)

[ダイアモンド社 2013年]



丸岡 翔子 [経営学部 会計ファイナンス学科3年]

講義科目「職業と人生」の講師の方に推薦されたことや、インターネット上のオススメ本の中にあっただけで読んでみようと思ったのが、この本との出会いのきっかけです。

内容のほとんどが対話方式なので、会話を聞いている感覚みたいに読みやすい本です。反対の意見を持つ二人が、心理学者のアルフレッド・アドラーが提唱する「アドラー心理学」を基に話し合うという形式の内容に魅了され、引き込まれるように読み進めました。

日常において「好かれたい」「自分を良く見せたい」と思いながら過ごしている人がほとんどかと思えます。そのことで、たとえば、自分の意見を大勢の人前で述べる時、変に目立ってしまうのではないかと恐怖心や、自分に対する劣等感などのマイナス感情が生まれる。こんな時、「嫌われる勇気」を持つことで、プラスの感情に変えることも可能であるといった考え方に、私自身、本当に励まされました。

言葉や考え方が難しい部分もありましたが、一つ一つ理解し、自分の状況に置き換えて読むと面白いと思います。とても人気で有名な本なので、一度は読むことをオススメします！！

【 図書館所蔵 1層書架 : 和書 146.1/KIS 】

● 新入生に贈るこの1冊 ●

『告白』 湊 かなえ (著)

[双葉社 2008年]



稲垣 大地 [経済学部 経済学科 2年]

新入生のみなさん、ご入学おめでとうございます！大学生活は勉強も大切ですが1度きりしかない大学生活が勉強だけでは楽しくないですよ？そこでちょっとした息抜きにお勧めしたい本が、映画にもなった湊かなえの「告白」です。

舞台は高校、我が子を亡くした女性教師の告白から物語は始まる。「犯人はこの中にいる」朝のショートホームルームでの発言。そして犯人の二人にはAIDS感染した血液を混ぜて飲ませたこと・・・、ここから事件は大きくなっていき物語も過熱して行きます。

クラス委員長の告白、少年Bの母親の日記の告白、少年Bの告白、少年Aの告白、そして最後にまた先生の告白でこの物語は終結する。読み進めていくうちにだんだんと分かってくる事件の真相。人間関係の大切さに気づかされるのではないのでしょうか。

各章ごとに物語の語り手が変わっていくので読みやすく、小説としても短めなので飽きやすい人にも読める本だと思います。

【 図書館所蔵 1層書架：和書 913.6/MIN 】

『「考える力」をつける本』 書田隆史 (著)

[三笠書房 2013年]

佐藤眞紀世 [法学部准教授]



自分の限界に挑戦したことはあるだろうか。自分の限界を知っているだろうか。私は、これまで何度も限界に挑戦したことがある。試験に間に合わないと思いながら勉強し、マラソンの途中でもうだめだと思いながらも走り続けた。その結果わかったのは、限界は自分自身が決めているという事実だ。「もうだめだ」と諦めた瞬間が自分の決めた限界だ。

この書籍では、新聞の読み方、よい質問の方法から、ものの考え方、議論の方法、好奇心の広げ方に至るまで、新聞記者の経験を持つ著者がアタマの使い方を教えてくれる。自分よりも勉強のできる人のことを「アタマの出来が違う。」と諦めてしまっていないだろうか。その瞬間、まさに自分で自分のアタマの限界を決めつけているのだ。力の差とは、力そのものの差であるよりは、自分自身が持っている力の引き出し方の差だとこの著書では説かれ、力の引き出し方を実に具体的に説明してくれる。もちろん、引き出すための力の蓄え方も教えてくれる。これまで、アタマの使い方を誰かに教えてもらったことがあるだろうか。やはり、「アタマは使いよう。」なのだ。

【 図書館所蔵 1層書架：和書 141.5/KUT/1 】

※ なお、続編となる「(続)「考える力」をつける本」[2014年] もあります。

【 図書館所蔵 1層書架：和書 141.5/KUT/2 】



● 新入生に贈るこの1冊 ●

『思考の整理学』 外山滋比古（著）

〔 筑摩書房 1986年 〕

大塚 宜明〔 人文学部講師 〕



新入生のみなさん、ご入学おめでとうございます。

このお勧め図書を紹介を書くにあたって、まさきに思い浮かんだのが、外山滋比古著の『思考の整理学』です。

さて突然ですが、みなさんにとって、頭のイイ人とはどのような人でしょうか。これまでの経験から、想像してみてください。勉強のできる人、もしくは物知りの人が思い浮かぶかもしれません。しかし、それだけではどうも本当の意味で、頭のイイ人とは違うようです。本当の意味で、頭のイイ人はどのようなものか、そしてどうしたら頭のイイ人になれるのか。その一つの答えと方法が、『思考の整理学』には書かれています。

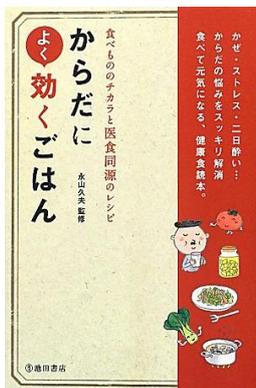
本書を読み、自分で考え、いろいろ試行錯誤を繰り返しながら、4年間を過ごしてみてください。みなさんが卒業する頃には、勉強のできる人や物知りの人ではなく、きっと頭のイイ人に近づいていることでしょう。4年後のみなさんを見るのが、今から楽しみです。

【 図書館所蔵 2層書架：文庫 914.6/TOY 〕

『からだによく効くごはん — 食べもののチカラと医食同源のレシピ — 』 永山 久夫（監修）

〔 池田書店 2012年 〕

廣田 寿美〔 学生課（保健センター）職員 〕



初めての一人暮らしで自炊をするようになってから、朝食を食べなくなったという学生の話聞き、「食べることの大切さ」に関心を持ってもらえるような本を探していた時に出会った1冊です。

この本は、食べものの持つチカラをわかり易く説明した上で、体に良さそうで、簡単なレシピを紹介し、さらに、東洋医学のツボまで教えてくれるので、お得感がたっぷり！また、程よく配置された主張しすぎないイラストが、とてもかわいらしくて、ほっこり！！

食文化史研究家の監修で、東洋医学の観点から書かれていて、「医食同源」がテーマのようです。印象に残るのは「はじめに」の文中にある“「食」を選んでいく時点で、すでに「命」を選んでいくのです”という言葉。日常生活で意識していきたい言葉です。はじめから読んでも、一番気になる章からでも良いと思います。レシピのほかに、野菜の切り方やアク抜きの方法、エビの背ワタの取り方や、一番だし、二番だしの取り方など、料理の基本も随所に出てきて、初めての自炊にも向いていると思います。

「食」の効果は個人差があり、体質や体調によっても異なるので、必要時は医療機関に受診する事も踏まえた上で、気楽に読んで、是非、充実した食生活を送ってほしいと思います。

※ 現在、所蔵はありませんが、5月頃に提供予定です。

おくいずみ しゅん
奥泉 峻 さん（人文学部こども発達学科 4年）

※ インタビュー当時の学部・学科、学年です。2015年3月に卒業されました。

『多くの人に支えられ充実した大学生活でした！ 素晴らしい出会いに感謝！！』



いつも元気に、さわやかな笑顔で挨拶をしてくれる好感度100%の人文学部こども発達学科4年生の奥泉峻さん。3月に卒業され、4月から北広島市立西の里小学校で勤務をしています。

在学中は、「図書館に行けば奥泉さんがいる」と称されるぐらい、積極的に図書館を利用されていました。

そんな奥泉さんに、本学での思い出や、勉強以外で頑張ってきたこと、就職戦線に挑んだ苦労話などを伺いました。

— 進学先として本学のこども発達学科を選んだ理由は何ですか。

本音は、教育大に落ちたので本学に入学しました。(笑)

大学は入学してどれだけ頑張れるかが勝負だと思います。周りの仲間たちや先生方、職員さんにも恵まれ、施設も整っているなので、今となれば、こども発達学科に入学して本当に良かったと思います。

— 4年間の大学生活はどうでしたか、そして一番の思い出は何ですか。

あっという間の4年間でした。辛いこともありましたが、楽しかった大学生活でした！

一番と言われるとなかなか難しいですが、勉強の他に、いくつものアルバイトを経験できたことや、旅行や教育実習などが大きな思い出です。大学時代は一生のうちでも自分の時間が一番とれる時期なので、できる限りやりたいことをやるようにしていました。

— この4年間、勉強の他に、自分なりに頑張ってきたと思うものは何ですか。

勉強の他には、経済的な面もあり、アルバイトを頑張り、色々な職種に挑戦してきました。

日常生活に必須なコンビニや飲食店〔スープカレー屋(笑)]などで実際に働くことによって、普段、何も考えずに利用させていただいている裏では、並々ならぬ苦労があることを学ぶことができ、人に感謝できるようになりました。また、学外での人間関係を築くことができるので、学ぶことはとても多かったです。「アルバイトのせいで・・・」という言葉は嫌いなので、優先順位を考え、シフト調整を徹底して管理し、勉強を含め趣味や遊びとも上手く両立をしてきました。

— アルバイトを行いながら、勉強を含め色々な事との両立を図ってきた姿勢は、素晴らしいですね。きっと時間の使い方が上手なのですね。

そんな奥泉さんにあらためてお聞きしますが、こども発達学科に在学して自分にとって大きなプラスとなった事を挙げるとすれば、それは何ですか。

時間の使い方について、褒めていただき、ありがとうございます。「よく学びよく遊べ」が私のモットーです。メリハリを付けることが時間をうまく使うコツだと思っています。



こども発達学科でのプラスとなったこと、色々ありましたので……。あえて挙げるとすれば、素晴らしい出会いがあったことですね。学科の人数も他の大学に比べ、少ないということもあり、また、同じ目標を持っている仲間たちがいるので、みんなと仲良くなりやすいのが特徴です。仲間たちと遊ぶことや頑張ることを通して、お互いを知ることができました。この出会いは一生の宝です。そして、親身になって相談に乗ってくれる職員の方々、また、先生は厳しい方もいらっしゃいましたが、私たちが社会に出ても困らないようにということを考えて、愛情をもって接してくださいました。時には「厳しすぎ！」(笑)と感じることもありましたが、今では本当に

感謝しています。

— 教育者の道に進むことに関して、早い時期から準備を進めていたと伺っています。

この数年は、厳しい採用情勢にあります。奥泉さんの就職戦線はどうでしたか。ご苦労した点などがあればお聞かせください。

近年、学校統合や定年者の再任用などで、新規採用の枠が減りつつあります。また、教員の不祥事が後を絶たない現状があり、保護者の方々などからの見方の変化にも拍車がかかり、厳しい試験状況となっています。

私は、教員になることを目指していましたが、早くから準備を進めていましたが、以上のような状況もあってか、本試験では残念ながら落ちてしまいました。正直なところ、食事も喉を通らないくらいにショックを受け、しばらく家から出られませんでした。

そんな折、期限付き教諭の募集について声をかけていただき、挑戦することにしました。履歴書を本気で何日もかけて書き、書類提出後は、自分を信じて教育委員会から連絡をひたすら待つ日々でした。

3月中に決まることが多く、卒業間際でもあるので、決まらなかったら……。そんな不安との葛藤もあり、精神的にかなり追い込まれました。そんな中、恵庭市・北広島市・札幌市から連絡をいただき、安堵したのと同時に、自分を認めていただいたことへの感謝と頑張らなければという決意で一杯になりました。

1年間という期限付きですが、これまで学んできたことを生かし、精一杯頑張ると共に、来年の本採用試験への再チャレンジに向けても新たに決意をしたところです。

— 積極的に図書館を利用されているようですが、どのように活用されていましたか。



主に、教員採用試験対策のために、図書館を利用させていただきました。自宅にはない広いスペースと静かな空間、そして通年を通して過ごしやすい温度。勉強するには快適な環境でした。

また、図書館には様々な閲覧室があり、毎回場所を変え、色々な場所で勉強をしてきました。専門書も数多くあり、希望する資料をすぐに閲覧することができるので、かなり勉強が捗ります。

集中的に勉強する時は、開館時間の朝9時から閉館近くの夜9時まで利用することが多かったです。集中して勉強すると、疲労度が増しますが、疲れた時にはラウンジで寛げるので、いいリフレッシュになりました。

— 社会人としての第一歩を踏み出すことになりましたが、新たな決意をお聞かせください。

まだまだ未熟で、わからないこともたくさんありますが、周りの先輩方に教えていただきながら、子どもたちと一緒に成長して行きたいです。

子どもたちに負けないパワーを持ち、全力で接して行きたいです。そして、しっかりとした目標を持った何事にも努力できる子どもたちに育てて行きます！！

— 最後にこれから入学してくる新入生や後輩へのアドバイスなどがあればお願いします。

大学4年間は、自由な時間が多い反面、あっという間の4年間でもあります。その中でも、卒業後“こんな社会人になりたい”という目標を持って過ごして欲しいと思います。しっかり行動すれば、それは必ず自分の身になっています。

また、この先“本気で頑張ろう”ということがあるはずですが、しかし、努力しても上手くいかないこともあると思います。「これだけ頑張ったのに・・・」と悔し涙を流すこともあるでしょう。勉強だけではなく就活、スポーツやアルバイトにも言えることです。結果はすぐについてこないものなのかもしれません。私も、趣味の車や収入を我慢する覚悟を決め、アルバイトなど様々なものを封印して挑んだ教員採用試験ですが、結果、本採用はダメでした。考えが甘かったところもありますが、期限付き教諭のチャンスは得ることができました。このチャンスを生かし、必ず本採用に繋げて行きたいと決意を新たにしています。結果は必ずいつか付いてくるものだと思じていますので、これから何かに挑戦することや、今何かに挑戦していることも、あきらめずにとことんこだわって、やり抜いてください。気づかないうちに、自分の長所など武器となるものができているはずですよ！！

— 奥泉さんの大学生生活4年間は、楽しい思い出と共に挫折から得られる貴重な体験もあったそうですね。

自らが挫折を経験した分、人の気持ちのわかる立派な先生になられることでしょう。

児童の心をつかむ“爽やか奥泉先生”とお会いすることを楽しみにしています。

本日は、お忙しいところ、ご協力ありがとうございました。

「図書館ガイダンス」紹介

図書館では、年間を通じてガイダンスを実施しています。

新入生を対象とした

新入生オリエンテーション（4月）

- ① 図書館利用の必要性や図書館サービスの内容の説明（DVDの視聴と共に説明）
- ② 図書館ホームページの説明（開館日程・開館時間、貸出冊数・貸出期間など）
- ③ 蔵書検索システム「OPAC」の説明
- ④ 利用上のマナーについての説明
- ⑤ 館内ツアー（カウンター利用説明、資料の配置・書架案内、各閲覧室案内など）



情報リテラシーガイダンス（前期・後期）



<前期：5～6月>

- ① 情報リテラシーの意義について（DVDの視聴と共に説明）
- ② 蔵書検索システム「OPAC」による図書の探し方（検索の基本原則、書誌情報・所蔵情報から分かることなどを併せて説明）
- ③ オンライン新聞記事データベースによる新聞記事の探し方（「朝日新聞」「北海道新聞」）
- ④ 自分専用ページの「マイライブラリ」の使い方（ログイン手順・借用中の資料一覧やお知らせ等の見方）

<後期：9～10月>

- ① 雑誌の特徴について
- ② CiNii Articles（「国立情報学研究所」の運営する学術論文データベース）による雑誌論文の探し方
- ③ 蔵書検索システム「OPAC」による雑誌の探し方
- ④ オンライン新聞記事データベースによる新聞記事の探し方（「日本経済新聞」）
- ⑤ 資料の保管と分類・評価と情報の分析について（DVDの視聴と共に説明）

情報リテラシーガイダンスの仕上げとして演習課題での実習です。

演習課題の中には、実際に館内の書棚から資料を探さなければならないものもあります。

- 1) 「OPAC」「CiNii Articles」などのデータベースを使って検索します。課題提出期間中は、図書館の閲覧室の専用ブースのパソコンを使用します。
友達と、相談し合いながら行っていくのも良いでしょう。



2) 課題の中で不明な点があったら、図書館職員がバックアップ致します。
遠慮なく質問してください。



3) 検索した目的の資料を、所蔵情報を頼りに実際に探します。
館内の書架に慣れていただくのも目的の一つです。



4) 演習課題ができましたら、図書館職員が確認します。
正しければ、サインをもらうことができます。



5) 課題を見事クリアし思わずVサイン！
やはり、書架から資料を探してくるのが大変だったようですね。
お疲れ様でした！



大学院ガイダンス（入学時に希望される研究科に応じて開催）



- ① 図書館の施設とサービスについての説明（既に大学において図書館を利用していたことを前提として所属する研究科に特化した内容による説明）
- ② 蔵書検索システム「OPAC」の使用説明
- ③ 各種データベース（*注）の説明
- ④ 自分専用ページの「マイライブラリ」を使って他館から文献を取り寄せる申込方法
- ⑤ 館内案内

ゼミガイダンス（希望されるゼミに応じて開催：主に3年専門ゼミ）



- ゼミのテーマや各自の卒業論文テーマに副って実施
※ 演習課題を行いながら1年次のリテラシーガイダンスの復習も兼ねる。
- ① CiNii Articles（「国立情報学研究所」の運営する学術論文データベース）による雑誌論文の探し方
 - ② 各種データベース（*注）を使った検索方法
 - ③ 自分専用ページの「マイライブラリ」を使って他館から文献を取り寄せる申込方法

*注) 医中誌 Web（医学中央雑誌刊行会が作成する国内医学論文情報のインターネット検索サービス）や「D1-Law.com」（第一法規が提供する法情報総合データベースサービス）などのデータベースを使ったガイダンスを実施しています。

タイミング

菅原 真紀（図書館職員）



普段図書館事務室の片隅で仕事をしている私は、カウンターに登場するのは週に1回程度、それもごく短時間であるが、図書館を利用される皆様と触れ合える貴重な機会は楽しみでもある。カウンターを舞台にした2つのエピソードをご紹介します。

○月○日

ある学生さんから「ヘルス関係の雑誌はこの図書館にないでしょうか？」と質問を受けた私は頭の回転が鈍っていたのか、額面通りに受け取り「札幌学院大学は人文・社会科学系中心の大学なので、ヘルス関係の雑誌は置いていないのですよ」と回答してしまいました。残念そうに帰っていく学生さん。

直後にハタと思い当たった。確かに『○○ヘルス』なる雑誌は本学に所蔵していないが、図書館にあるオンライン電子ジャーナル「日経 BP 記事検索サービス」に、『日経ヘルス』『日経ヘルスプルミエ』のヘルス関係雑誌が収録され、本文・写真を雑誌そのままのイメージで見られるのだ。さらに、国内の雑誌論文を検索できるオンラインデータベース「CiNii Articles」を利用すると、自分が調べたい論文一覧が表示され、雑誌論文そのものを見ることが出来ることもある。質問された方はよく図書館でお見かけするのだが名前が分からず、連絡するすべがない。「学生さん、どうか戻ってきて」と切実に願ったものだった。

すると、2日後にその学生さんがカウンター前を通りかかったではないか。なんとというタイミングの良さ！ 私はヘルス関係の雑誌論文を本学でも読めることを伝えた。学生さんは、カウンターから大きく身を乗り出し声をかけた私の姿に一瞬ギョッとした表情を見せつつも、探していた雑誌論文が見られることが分るとニコリ微笑んでくれた。私どもは皆様からの問合せに対し常に十分な情報を提供できるよう研鑽を積むべきであり、自分のいたらなさを反省することしきりであるが、後になって適切な回答が見つかる場合もある。

ちなみにその時の雑誌特集テーマは「アンチエイジング」。学生さんより私向けだったことに苦笑した。

○月○日

ある先生が、トマ・ピケティ著『21世紀の資本』が図書館に所蔵していないか尋ねられた。問合せの当日入荷したばかりでOPAC（本学図書館の蔵書検索システム）にはまだ表示されないタイミングだったが、世界的ベストセラーでどっしりと厚みのある装丁が印象深く、事務室で受入作業中の図書の中の中にあつたことを思い出す。急ぎで作業を終え数日後に先生に貸出することができた。話題騒然の新刊図書に真っ先に目をとおすことができるのは、幸せなことではないだろうか。

タイミングの良し悪しは時の運だが、このお二人は図書館を頻繁に利用して下さっている共通点がある。図書館に多く足を運ぶことで、絶好のタイミングで期待に添う資料と出合える可能性が高まるのは言うまでもない。皆さんもぜひ足しげく図書館をのぞいてみてほしい。

『21世紀の資本』 図書館所蔵 1層書架：和書 331.85/PIK】

2014(平成26)年度 図書館利用統計・蔵書統計

表1. 開館日数 (日)

通常開館	休日開館	短縮開館	開館合計	休館	総計
198	44	90	332	33	365

表2. 入館者数 (人)

9:00~17:00	17:00~21:30	合計	1日当たり
173,844	42,666	216,510	652.1 [216,510÷332 (開館日数)]

表3. 館外貸出者数 (人)

学生・院生	教職員	その他	合計
19,948	2,756	1,217	23,921

表4. 館外貸出冊数 (冊)

学生・院生	教職員	その他	合計
37,348 (学生・院生1人当:12.4)	9,102	4,394	50,844

表5. 館外貸出冊数の内訳 (冊)

	学生・院生	教職員	その他	合計	前年比
和書	33,575	6,897	4,252	44,724	86.8%
洋書	2,922	1,464	142	4,528	91.4%
雑誌	851	741	0	1,592	72.5%
合計	37,348	9,102	4,394	50,844	86.6%

表6. 第4閲覧室・グループ学習室のパソコン利用 (ログイン回数)

第4閲覧室	グループ学習室	合計	1日平均	1台平均
24,927	7,721	32,648	98.3	653.0

表7. 相互協力 (件)

文献複写		現物貸借	
複写依頼	複写受付	貸借依頼	貸借受付
664	2,024	208	444

表8. 蔵書冊数 (冊)

和書	洋書	図書合計	視聴覚	総合計
456,110	129,709	585,819	25,781	611,600

2013年度受入冊数: 14,706冊 (図書・製本雑誌・視聴覚資料)

2014(平成26)年度 DVD (Blu-ray含む) 視聴ランキング [BEST 5]

- 第1位 シュガー・ラッシュ (リッチ・ムーア監督) [ウォルトディズニースタジオジャパン (2013)]
- 第2位 テッド (セス・マクファーレン監督) [ジェネオン・ユニバーサル・エンターテイメント (2013)]
- 第3位 アイアンマン3 (シェーン・ブラック監督) [ウォルトディズニースタジオジャパン (2013)]
- 第4位 アベンジャーズ (ジョス・ウェドン監督) [ウォルトディズニースタジオジャパン (2012)]
- 第5位 ハングオーバー!!!最後の反省会 (トッド・フィリップス監督) [ワーナー・ホーム・ビデオ (2013)]

編集後記



新年度がスタートしましたね。4年生は就職活動など、勝負の年度となることでしょう。これまで積み上げてきた知識と経験を十分発揮し、全力で頑張ってください。図書館も可能な限り協力させていただきたいと思います。

去る4月1日（水）には、本学G館SGUホールにて、入学式が執り行われました。少々風が冷たい感を受けましたが、天候に恵まれ、春を感じさせる日差しが心地よく、式場前にある入学式の看板と共に記念撮影をする新入生や保護者の方々の姿が印象的でした。

さて、多数の方々のご協力により『書林』第87号を発行することができました。ご多用にもかかわらず、快く執筆やインタビューを引き受けて下さった学生の皆さん、教職員の皆様に、心よりお礼申し上げます。ありがとうございました。

4月の発行ということもあり、毎年のことながら、特に新入生歓迎の意を込めた内容でまとめました。不安と期待を思い描いている新入生に是非、読んでいただきたい内容となっています。また、新入生はもとより、在学生におかれましても、参考となる部分があると思いますので、ご一読いただければ幸いです。

今回お届けする『書林』第87号の主な内容は、次のとおりです。ご感想・ご意見などがありましたら、図書館までお寄せください。

■新入生へのメッセージ

日頃よく図書館を利用されている先輩学生から、自らの大学生活における経験から、新入生に向けての熱いメッセージが寄せられました。

■新入生に贈るこの1冊

本学の学生3名と教職員3名の皆様から、興味深い作品に加え、実際に大学生活を送る上で、非常に参考となる本を、ご推薦いただきました。気になる著作については、是非、読んでみてください。

■Welcome to SGU Library

図書館を積極的に利用されていた学生（今年3月に卒業）へのインタビューです。大学生活における思い出や挫折から得られた貴重な体験の他、図書館利用の感想が述べられています。

■図書館ガイダンス紹介

図書館で実施しているガイダンスの内容について、写真と共に紹介しています。

■from Library

図書館職員の、日常のカウンターにおけるエピソードが紹介されています。

札幌学院大学図書館報「書林」第87号について

*掲載記事の著作権は札幌学院大学図書館にあります。

*記事・写真の無断転載は禁止します。

*紹介図書の写真については、各出版社から掲載許諾を頂いております。

許諾を下さいました各出版社の皆様には心からお礼申し上げます。
